



～もっと地域と もっと地域へ～

かがやくえがお

【学校教育目標】夢をもち、ふるさとを愛し、自ら未来を切り拓く児童の育成

第19号

令和8年 8月 9日
長崎市立小島小学校
校長 桐山 充晴

平和祈念集会

1945年8月9日、長崎に原子爆弾が投下されてから81年が経ちました。

小島小学校でも、「戦没者への慰霊と平和への願い」の思いをもち続けるための「平和祈念集会」を実施しました。本来なら、体育館に集まって行うところでしたが、今年度から、子供たちの体調への配慮として、リモート形式での実施に変更しました。

集会の、校長講話では以下のようなことを伝えました。

校長の講話のあとは、平和学習に取り組んだ5年生の学習成果の発表を行いました。また、各学年の取組を見合う学習も行いました。
(部分抜粋)

「戦争の種」「戦争の芽」は、私たちのすぐそこにあります。「いたずら」や「けんか」、「いじめ」「仲間外し」「無視」などが当たります。「意見や考えがあわないこと」「思い通りにならないこと」は、国と国との間でもあるし、誰と誰の間にもあります。大切なことは、相手の立場に立って考えてみることに、話し合っ解決しようとする、相手の心をわかろうとすることです。力で抑え込もうとしたり、自分の言い分だけを通したりすると、自分の中に「戦争の種」「戦争の芽」を生んでしまいます。戦争をよしとする間違っ心をもってしまうことにつながります。

私たちが今日、こうして平和祈念集会を行うことには、大きな3つの意味があります。1つ目は、「亡くなった方々を悼み、命の重さを心に刻むため」です。2つ目は、友達とおしゃべりをしたり、学校で勉強したりできる「今日の平和な日常に感謝するため」です。そして3つ目は、長崎から世界へ「絶対に戦争や原爆の悲劇を繰り返さない」という強い誓いを立てるためです。

戦争は過去のことですが、「平和を創る心」は今の私たちにも必要です。平和とは、誰かが作ってくれるものではなく、私たちの心と行動の中にあります。

そして今、私たちはもう一つ、心を寄せなければならないことがあります。たった2週間前、熊本県で大きな地震が起きました。今もお強い揺れが続き、避難所で不安な夜を過ごしている小学生や、おうちが壊れて悲しい思いをしている人たちがたくさんいます。81年前の長崎と同じように、突然『当り前の毎日』が奪われてしまったのです。

平和を願うということは、過去の戦争を忘れないことだけではありません。『いま困っている人に心を寄せ、自分にできる助け合いの行動をとること』も、立派な平和の形です。熊本で頑張っている人たちのために自分たちにできることは何かを考えたり、困っている隣の友達に優しくしたりすること、そんな心をもつことが大切です。



大切に育てたい「平和の心」

長崎の人なら、大人子供問わず「8月9日」が何の日か知ってほしいのですが、子供や若者、親世代にも答えられない人が増えている今の時代だからこそ、子供たちに平和についてしっかりと学ばせていくことが大切だと考えます。

学校生活の中で子供たちは、様々なトラブルを起こしたり直面したりします。子供たちの周りにある問題を未然に防止したり、問題が起こった際に丁寧に指導したり、意味をよく考えさせたりしていくことで、人としての心の豊かさや人としてありたい姿について一緒に考えていく、このことが大切だと思います。

しかし、子供たちにとってはトラブルでさえ大切な学習の一つです。トラブルが起こった時に、自分の気持ちや行動を思い返しなが冷静に自分の心と対峙し、「自分で考え」、「自分の気持ちを伝え」、「相手の気持ちを想像し」、対話によって解決できるよう私たち教師は支援します。安易に誰かのせいにするのではなく、自分も周りの人も幸せにしていける方法を探ることが大切です。友達や家族を平和にしていけることが、世界を平和にする第一歩となります。子供たちの心が新鮮で素直なうちに、平和への思いを広げていきたいと思っています。相手をよく理解し、おかしいことややってはいけないことを、心の目でみて判断し、平和について本気で考えることができる子供たちを育てていきましょう。

